

沖縄担当大使通信
第5回 沖縄の未来を考える

2026年（令和8年）4月30日



TOFU プログラム事後報告会
(2026年4月26日、於：宜野湾市内ホテル)

いよいよ新年度が始まりました！この4月はどのように過ごされましたでしょうか。私自身は、入学式などの行事出席や人事異動の挨拶などが続き、多くの新しい出会いや進展がありました。中でも、「アメリカで沖縄の未来を考える」（Think of Okinawa's Future in the United States: TOFU）プログラムの事後報告会は、外務省が沖縄で開催する最大行事の一つとして、堀井巖外務副大臣や参加した学生の皆さんをはじめ、当地の幅広い組織や世代の皆様に出席いただきました。

一連の行事に出席して感じたことは、これまでの関係者の努力と実績を基盤に、次の世代が新たな行動を起こし、発展させていくことの重要性です。今回のTOFU プログラム参加者も、アメリカで沖縄の未来を考えるのみならず、具体的な行動計画を発表しました。今回の沖縄担当大使通信では、沖縄の未来に向けて、私たちが今後さらに何ができるのか、一緒に考えていきたいと思えます。



TOFU プログラム事後報告会でのプレゼンテーション
(2026年4月26日、於：宜野湾市内ホテル)

●「アメリカで沖縄の未来を考える」(TOFU) プログラム事後報告会

4月26日、沖縄県・宜野湾市で、[第8回「アメリカで沖縄の未来を考える」\(TOFU : Think of Okinawa's Future in the United States\) プログラムの事後報告会](#)を開催しました。この報告会には、3月の TOFU プログラムに参加した沖縄の高校生・大学生など計 30 名やそのご家族、過去の TOFU プログラム参加者に加え、国会議員、県議会議員、沖縄県知事を始めとする自治体首長、経済界、在沖米国総領事館・在沖米軍の関係者など約 200 名が参加しました。

冒頭の堀井外務副大臣挨拶、プログラム概要の動画放映の後、各人がプログラムに参加した経験を踏まえ、沖縄の未来に向けた提言を5グループが英語を交えて発表しました。私がすばらしいと感じたのは、各グループの提言が、[①沖縄での日米空手交流](#)、[②若者によるミニ外交フォーラム](#)、[③中学生向けの国際相互理解ワークショップ](#)、[④県内の高校生と県外の修学旅行生による対話](#)、[⑤沖縄各地での文化・共存・歴史・平和ゆんたくと日米高校生によるユースキャンプ](#)など、具体的で実現可能、かつ自らが担い手となる内容だったことです。今後の実行と発展を大いに期待しています。



TOFU プログラム事後報告会での日米交流学生大使の任命
(2026年4月26日、於：宜野湾市内ホテル)

●日米学生交流大使の任命と TOFU ロゴの発表

TOFU プログラムでは、昨年初めて「[日米交流学生大使](#)」として4名が任命されました。今回の事後報告会では、普天間飛行場訪問などの国際交流活動や、これまでの TOFU 参加者をつなぐ同窓会の開催、[Instagram/Facebook](#) 運営などの年間の活動成果が報告されるとともに、新しい「日米交流学生大使」として8名が任命され、茂木外務大臣からの委嘱状が堀井副大臣から手交されました。人数が倍増したのみならず、8名のうち1名は海外、2名は東京、5名は沖縄在住ということで、年間を通じた TOFU フォローアップ活動がさらに発展することを期待しています。

そして、これまでの TOFU プログラム参加者からの募集・選考を経て決定された「[TOFU ロゴマーク](#)」も今回発表されました。懇親会では、同じく沖縄発で国内各地や世界へと活動の幅を広げる教育スタートアップの[HelloWorld](#) や学生団体の[ALOHA](#) からの発表も行われました。今後、TOFU プログラム年1回開催・約30名参加という枠を超えて、同窓生ネットワークを核に、活動を沖縄から県外、さらには世界へと視野を広げ、発展していくよう願っています。



嘉手納町での TOFU プログラム事後報告会
(2026 年 4 月 21 日、於：嘉手納町役場)

●嘉手納町での TOFU プログラム事後報告会

この TOFU プログラムの参加者公募をはじめ、運営に際しては、県内の多数の自治体の協力を得ています。今回の事後報告会にも多くの自治体首長の皆様に加いただき、今後の運営に向けての意見交換を行うことができました。

特に嘉手納町では、嘉手納町からの TOFU プログラム参加者による事後報告会が以前から開催されており、全体の事後報告会の開催が定例化した今も継続しています。4月21日、當山宏嘉手納町長をはじめ、嘉手納町役場、嘉手納町教育委員会、学校関係者の出席のもと[嘉手納町での事後報告会](#)が開催され、同町から参加した2人から、得られた経験について報告がありました。

「人が違えば意見が違うのはむしろ当然であり、対話を通じて距離を縮めていくことが大切」「外交は人が担っており、国と国との関係も人と人との関係から始まる」「単なる日米交流でなく、日米間の相互理解を深める交流を進めたい」など、多くを学ぶとともに、将来に向けての決意を新たにしたとの報告を聞いて、嬉しく思いました。TOFU プログラムの成果が、嘉手納外語塾をはじめ各自治体での取組と連携することで、地元の多くの人たちに生かされていることを大変嬉しく思います。



第3回市町村シンポジウム
(2026年4月8日、於：キャンプ・ハンセン)

●第3回市町村シンポジウム（米海兵隊主催）

今月は、米軍との対話や交流にも進展がありました。4月8日、[第3回市町村長シンポジウム](#)がキャンプ・ハンセンで開催されました。このシンポジウムは、米軍施設・区域所在市町村長・職員が米海兵隊に対する理解を深め、米海兵隊と地元との間の良好な関係構築を目的として、ブライアン・ウォルフォード米海兵隊太平洋基地司令官が主催したものです。日本側からは、浦添市、宜野湾市、金武町、宜野座村、沖縄防衛局、外務省沖縄事務所の代表が参加しました。

キャンプ・ハンセン内の新隊舎や拘置所の視察、隊員食堂での昼食、戦術車両の運転体験の後、市町村の関心事項について意見交換を行い、地元負担の軽減や地元と米軍の交流・協力の促進に向けて活発な意見交換が行われ、個別事項についての進展もありました。

相互理解の深化と地元負担の軽減に向けて、今後のさらなる成功を期待しています。



アメリカ・フェスト（2026年4月11日、嘉手納飛行場）

●米軍施設の一般開放行事

多くの米軍施設では、毎年一般開放行事を開催しています。特に、本年は米国建国250周年ということで、関連祝賀行事も併せて開催されています。

私は、3月28日は名護市にある米海兵隊キャンプ・シュワブの[シュワブ・フェスティバル](#)、4月11日は米空軍嘉手納飛行場の[アメリカ・フェスト](#)、4月25日はうるま市にある米海軍・海上自衛隊ホワイトビーチのホワイトビーチフェスティバルに、それぞれ参加する機会がありました。

それぞれの行事には地元の住民も含めて大勢の観客が来場し、ライブコンサート、装備品展示、フードフェス&マーケット、花火などを楽しんでいました。また、地元の市町村長・議員・職員や経済団体・陸海空自衛隊など多くの関係者も招待され、基地の司令官や幹部との交流を深めていました。

このような一般開放行事を毎年準備・運営することは、地元の皆様と基地関係者、そして日米間の友好と交流を深める上で、大変有意義なものと感じました。主催する各基地の皆様や関係者のご尽力に敬意を表します。



嘉手納外語塾入学式（2026年4月10日、於：嘉手納町中央公民館）

●沖縄の未来を考える

以上ご紹介したような様々な取組や、それを担ってきた関係者の努力と実績を基盤に、それを次世代に引き継いで発展させていくことが大事と考えます。

4月10日には[嘉手納外語塾入学式](#)が開催されました。當山宏嘉手納町長・塾頭や来賓の方々の参列のもと、浦崎直哉塾長から15名の新入生に入学証書が手渡されました。私の祝辞では、山田知恵著『ミーニング・ノート』の「キラキラチャンス」「わらしべチャンス」「スパイシーチャンス」という3つの「チャンス」を紹介しながら、先人が設立し今日まで運営してきた嘉手納外語塾に入塾できたという機会を最大限に生かしてほしい、とのメッセージを伝えました。

外務省沖縄担当大使・沖縄事務所は、来年30周年を迎えます。私もこれまでの蓄積を基盤に、TOFUプログラム参加者をはじめ幅広い皆様と一緒に沖縄の未来を考え、努力を積み重ねる所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

沖縄担当大使
紀谷昌彦